

夏期全国研修会「はじめのいっぽ2025」

## 講座 I

# 「ようこそはじめのいっぽへ」

全難言協 事務局長  
世田谷区立駒沢小学校 吹野佳朗  
2025年8月4日(月)

1

## 自己紹介

- ▶ 全難言協事務局長の吹野と申します。2016年から駒沢小学校で事務局長を担当しております。
- ▶ 難聴学級で採用されましたが、教員2年目から5年間通常学級担任もつとめました。
- ▶ 難聴・言語障害学級担当者として30年目になりました。

2

## ようこそ はじめのいっぽへ！

- ▶ 「はじめのいっぽ」にお申し込みいただき、ありがとうございます。
- ▶ コロナ禍で2年間オンラインによる研修会を実施しましたが、本当に大切なことを伝えるためには、対面による研修が必要と考え、この研修会を続けています。参加していただいたみなさんを、私たちスタッフは、心より歓迎いたします。

3

## この講義の内容

- 1 「**全難言協**」とは
- 2 「きこえとことばの教室」の  
「**専門性**」ってなんだろう？
- 3 「**保護者**」も支えるということ

4

## I 全難言協とは

## 全難言協とは

- ▶ 正式には「**全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会**」と言います。
- ▶ 全国の、「**きこえとことばの教室**」の**担当者**が中心の研究団体です。
- ▶ **個人会員**で、療育機関の言語聴覚士、心理士、大学の先生もいらっしゃいます。

## 全難言協とは

- ▶ 年に1回「**全国大会**」を開催しています。  
(今年度東京大会、来年度は近畿大会→奈良県開催)
- ▶ 5つの事業部が事業を行っています。
  - 研究部
  - 広報部
  - 調査・対策部
  - 情報ネットワーク部
  - 庶務・会計部

2026年8月6日(木)  
~7日(金)の2日間  
です!

## 全難言協とは

- ▶ **研究部**  
この夏期研修会「はじめのいっぽ」を企画・運営しています。

オンラインのニーズも高いですが、やはり研修会は「**対面**」で**お互いの顔を見て!**がスタッフや講師の願いです。

## 全難言協とは

### ▶ 広報部



会報第102号（令和7年6月刊）

機関誌第43号（令和7年3月刊）

「会報」と「機関誌」を年に1回ずつ発行しています。

9

## 全難言協とは

### ▶ 調査・対策部

毎年、全国の理事にお願いして「きこえとことばの教室」の実態を調査する**全国基本調査**を実施しています。調査項目ごとに結果をまとめ、年度末、機関誌に掲載しています。教室運営や研修、研究体制の改善に活用いただいています。

10

## 全難言協とは

### ▶ 庶務・会計部

全国各地区のブロック代表、理事と連携し、全国の設置校一覧を作成しています。これに基づいて会報や研修会のお知らせが届きます。全難言協の全ての事業は、設置校1校当たり**3,000円の負担金**を基に運営しております。今後も負担金納入にご協力ください。

11

## 全難言協とは

### ▶ 負担金について

多くの自治体の教育委員会からご負担いただいております。基本的な考え方としては、**設置者である自治体の教育委員会が、きこえとことばの教室の指導者に専門的な指導に関する研修を実施すべきところを、全難言協が負担金を1校当たり3,000円お預かりすることで代わりに行っているということ**です。

12

## 「きこえとことばの教室」の現状

(文科省調査・調査対策部より)

- ▶ 「きこえとことばの教室」は全国約**4,000校**に設置(全難言協で把握している設置校数)。
  - ▶ **難聴・言語障害**で通級している児童生徒数は、全国に約**50,000人**、担当者は約**5,000人**?
- 昨年度初めて難聴・言語の担当になった方はおおよそ900名。そのうち実に**95%が1人で**学級及び教室を担当している。

13

## あなたはひとりではありません!

- ▶ ここには、みなさんと同じような境遇の方が、たくさんいらっしゃいます。この後のワークショップでつながってください。悩みが共有できるはずです。
- ▶ スタッフや講師も、**最初はみんな初心者**でした。最初からうまくいくわけがありません。ことに、難聴と言語に関する指導内容は、インターネットで検索しても、なかなか出てはきません。

14

## そして…

- ▶ この研修会に申し込まれたあなたなら、きっとなんとかなります。日々の指導を何とかしたい! と思っているあなたなら、きっと9月からの指導がもっとよくなるはずです。
- ▶ 何とかしたいと思っているあなたを、われわれスタッフは、心より歓迎いたします。

**ようこそ「はじめのいっぽ」へ!**

15

## 2 「きこえとことばの教室」の「専門性」ってなんだろう?

16

## 特別支援って、つらいですよね…

- ▶ 特別支援の教室・学級に来る子供たちは、どこかで「**ぼく・わたしは、できないんだ**」という体験をしています。
- ▶ そんなエネルギーが**マイナスまで減ってしまった子供たち**を元気にするのが我々の仕事です。でも、それは、並大抵のエネルギーではありません。だから、つらいのです。



17

## 特別支援って、つらいですよね…

- ▶ 「**どうせ、できないよ**」「**いやだ、やらない**」と、せっかく準備した教材に目もくれずそっぽを向かれたことも、一度ではないでしょう。安心してください。**みんな同じことを体験**しています。
- ▶ でも、そんな**子供たちが、いちばんつらい**、ということのみなさんはわかっていますよね。だから、こうしてこの研修会に来られたのですよね。



18

## みんな、経験しています！

- ▶ 最初から、うまくできた人は、おそらくこの会場にはいないでしょう。みんな、うまくいかない思いをして、子供にも、保護者にも、申し訳ない思いをたくさん経験して、でも、仲間に助けってもらって、この会場に来ています。
- ▶ ひとりではどうにもならなかった。でも、仲間に助けってもらって、なんとかなっている。**助けもらうための「はじめのいっぽ」**がこの研修会なのです。

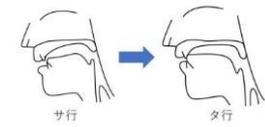


19

## みなさんは…

- ▶ 何を学びに来ましたか？
  - ★「サ行」の構音指導の方法
  - ★吃音児の自己認識のために
  - ★聴覚障害児の言語発達の指導内容
- ▶ 児童生徒の実態を知ること、障害の特性、その指導方法を「**一般的な知識として**」知ることがとても大切なことです。ぜひ**有意義な学びを!**

サ行⇒タ行の誤りについて



20

## そのために…

- ▶ 「きこえとことばの研修テキスト」をご活用ください。「きこえとことばの教室」の担当者のために作られた唯一無二のテキストです。困った時は、このテキストを開いてください。今回のいろいろな講義を受けてから読むことで、さらに皆さんの助けになるはずです。
- ▶ 私は未だにテキストを開きます。10年以上経ってから「そうか」とわかることもたくさんあります。

追加のご希望は、事務局・駒沢小学校まで「はがき」でお願いします。メールは全国からの運営上の問い合わせが多く、対応しきれないため。

21

## 「自立活動」とは

- ▶ 基本的なことですが、通級指導の「きこえとことばの教室」が担うのは、教科の学習ではなく「自立活動」です。
- ▶ 「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説」「自立活動編」に詳しい解説があります。(ネット上にも資料があります。)
- ▶ 6つの区分、27項目の内容があります。

22

## 「自立活動」とは

- ▶ 1 **健康の保持**
  - (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。
  - (2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること。
  - (3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること。
  - (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。
  - (5) 健康状態の維持・改善に関すること。

…**自分の特性**を知り、**理解を深めること**。(難聴や吃音)

23

## 「自立活動」とは

- ▶ 2 **心理的な安定**
  - (1) 情緒の安定に関すること。
  - (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。
  - (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する こと。

…**特性を理解し、「大丈夫」を学ぶこと**。

24

## 「自立活動」とは

### ▶ 3 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。
  - (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。
  - (3) 自己の理解と行動の調整に関する事。
  - (4) 集団への参加の基礎に関する事。
- …友だちと「うまくやる方法」を学ぶこと。

25

## 「自立活動」とは

### ▶ 4 環境の把握

- (1) 保有する感覚の活用に関する事。
  - (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。
  - (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。
  - (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。
  - (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。
- …補聴器や人工内耳をうまく活用すること。聴覚を活用すること。  
正しい構音を身に付けることなど。

26

## 「自立活動」とは

### ▶ 5 身体の動き

- (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。
  - (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。
  - (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。
  - (4) 身体の移動能力に関する事。
  - (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。
- …姿勢の保持や基本的な動きを高めること。構音操作や書字の力などにも関わる事。

27

## 「自立活動」とは

### ▶ 6 コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
  - (2) 言語の受容と表出に関する事。
  - (3) 言語の形成と活用に関する事。
  - (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
  - (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。
- …言語発達を促すことで、言語を用いてやりとりする=コミュニケーションの力を高める。正しい構音を身に付けること、発話明瞭度を高めることも。

28

## 法令上の根拠となるもの

- ▶ **学校教育法施行細則 第140条**  
…在籍する学校の教育課程の一部を「特別な教育課程」に  
よることができる。
- ▶ 一 言語障害者（…ことばの教室）
- ▶ 二 自閉症者
- ▶ 三 情緒障害者
- ▶ 四 弱視者
- ▶ 五 難聴者（…きこえの教室）
- ▶ 六 学習障害者（…ことばの教室）
- ▶ 七 注意欠陥多動性障害者
- ▶ 八 その他障害がある者で特別な教育課程によることが適当な者  
（→実はどんな子どもも対象となり得る。）

29

## 法令上の根拠となるもの

- ▶ **学校教育法施行細則 第141条**  
…特別な教育課程により受けた授業を、**在籍する学校で授業を受けたことみなすことができる。**教科の学習を一部抜けてもよい。
- ▶ **平成5年文部科学省告示**  
…特別な教育課程による授業時数は**年間35単位時間（週1時間）～280単位時間（週8時間）**を標準とし、LD、ADHDについては**年間10単位時間（月1時間）～280単位時間（週8時間）**を標準とする。

30

## 法令上の根拠となるもの

「756号通知および178号通知」

- ▶ **言語障害者**  
…口蓋裂、構音器官のまひ等…で構音障害のある者、吃音等話し言葉におけるリズムの障害のある者、話す、聞く等言語機能の基礎的事項に発達の遅れがある者、それに準ずる者（これらの障害が主として他の障害に起因するものではない者に限る。）で、**通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもの。**
- ▶ **難聴者**  
…補聴器等の使用によって通常の話し声を解することが困難な程度の者で、**通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもの。**

31

## 指導の対象となる児童・生徒

- ▶ **あくまで通常の学級の学習に参加できることが前提**  
…週1時間～週8時間（上限）
- ▶ LD、ADHDについては  
…月に1時間でも、指導効果があるとされる。それ以下は通級による指導とはならない。（月1時間では指導時間に）
- …「個別の教育課程」によって特別な指導を受けることができる。**教育課程を作成するのは、児童生徒が在籍する学校。**指導を行う学校と連携を取り、指導助言を受けながら作成する。

32

## 通級指導では

- ▶ 「自立活動」の全ての項目について指導する必要はありません。児童生徒の**実態を把握し、必要な支援の方法**を計画します。**具体的な指導の内容**についても、明日からの分科会の中で、少しずつ、学んでいただければと思います。

33

## 通級指導では

- ▶ そのために、この研修会では**「わかる人」とつながってください**。分科会の講師の先生も、もちろんですが、今日のワークショップで知り合った先生、近い地域の先生にも、たずねてみましょう。**「わかる人」とつながっている**かもしれません。

34

## とは言え…

- ▶ 「知らないこと」を学ぶことはとても大切です。でも、それをすぐに身に付けることは**難しいこと**です。知識は、少しずつ、身に付けてください。
- ▶ 学んだ指導も、すぐにできるようにはなりません。**わからないことや、うまくいかないことは、たずねることができるようになりましょう**。難聴や、吃音の子供にも同じような指導をしますよね。先生も同じです。

35

## そして…

- ▶ 目の前の子供を**「定型発達の子供と同じようにしてあげよう」と**思わないでください。
- ▶ 確かに、発音が明瞭になるに越したことはありません。でも、吃音や難聴は**「治す」ものではありません**。
- ▶ 今まで通常学級を担当してきた先生は、「8割の子供が、8割理解できるように」指導してきたはずです。

36

## そして…

- ▶ だから、「かわいそうなこの子を、通常学級でもできるようにしてあげよう!」と思っているかもしれません。
- ▶ でもね、決して無理をさせないでください。高いところにおいて、「大丈夫だからここへ来なさい」と言うことは、**時に、不適切な指導**であることを理解してください。

37

## そして…

- ▶ あなたは、「がんばれば10秒で走れるはずだから、走れるまで何度も練習しなさい」と言われたらどうですか? 「できるはずだから、150kmのボールが投げられるまで練習しなさい」と言われたらどうですか?
- ▶ 準備した課題をやらなかった子供は、**「そんなこと無理だよ」**って思っていたのかもしれないね。

38

## そして…

- ▶ あなたは、「この子の発音を治さなければいけない」「この子の吃音を減らさなければいけない」「この子の行動面を改善して、座って話を聞けるようにしなければいけない」そう思っているかもしれません。
- ▶ 特別支援教育とは、**子供を定型発達に近づけることではない**、と私は思っています。

むしろ、多様性を認め合えるよう、通常学級での**理解啓発**を!

40

## 「専門性」って何?

- ▶ 子供の特性について「たくさんを知っていること」これは大切な専門性です。ですから、**絶え間なく学び続けることは「専門性」を高めるために必要なことです。**
- ▶ でも、専門の知識をもち、指導法を身に付けることと、「高い専門性をもった支援者」であることは、イコールではありません。

## 「専門性」って何？

- ▶ 私の教員1年目。難聴の知識をもっている、補聴器の知識をもっている、初任者の私には適切な支援ができていなかったと思います。
- ▶ 1年目の私には、子供の育ちの背景や、保護者との関係や、学校での友達との関係など、複雑に絡み合う**子供の心配を支え、安心を育てる**ことができませんでした。その視点がなく、「**自分の力で子供を変えてやろう!**」と考えていたからです。今でも後悔の念でいっぱいです。

41

## 「専門性」って何？

- ▶ 30年間の教職員経験の中で、今の私が考える「専門性」とは、  
**「子供のよいところを見つけられる力」**  
これにつきると思っています。

42

## 「専門性」って何？

- ▶ 自信を失っている子供が、生きる力を身に付けるためには、「**自分は生きていていいんだ、ここにいていいんだ**」と思えることが基礎基本だと私は思っています。
- ▶ 「発音が治らない」「吃音が減らない」「うまく聞き取れない」「読み書きが上手にならない」それは、いけないことなのでしょうか？その子供は、悪い子なのでしょうか？違いますよね。

43

## 「専門性」って何？

- ▶ 「きこえとことばの教室」は、きこえとことばのことだけを教えるところではないと思っています。特別支援学級や特別支援学校もそうですし、通常学級でも基本は同じです。学習だけを教えるではありません。
- ▶ 学習以外にも、**たくさんできることがある、あなたにしかない力がある=あなたは役に立つ人なんだ**ということを、自分以外の誰かから教えてもらうところが学校です。

44

## 「専門性」って何？

- ▶ 「生きる力」ってそういうことですね。自分は、こんなことが得意なんだ、だから**世の中の役に立つんだ**ということを自覚できて、初めて社会人として世の中に出ていく自信がもてるわけです。これは障害があろうとなかろうと同じです。
- ▶ 我々も、そうではありませんか？誰かに背中を押されて、子どもと関わるこの仕事についてはありませんか？

45

## 「専門性」って何？

- ▶ 我々の仕事は、「できない」ことばかり指摘されて、生きる元気を失っている子供たちに、「**あなたはこんなにすてきな人なんだよ!**」を伝えることです。
- ▶ そのために、我々は、集団ではなく、1対1（あるいは小集団）を与えられているのです。「**今、私は、あなた(たち)だけのために、ここにいるんだよ**」と伝えましょう。

46

## 「専門性」って何？

- ▶ 「正しく発音できるようになったね」と言えれば、もちろんうれしいでしょうし、「吃音があっても、自信をもって、堂々と発表できるようになったね」でもよいでしょう。
- ▶ ありとあらゆる方法や手段で、我々は、目の前の子供に、「**あなたは、いい人なんだよ**」を伝えましょう。通常の学級と違って、ただ**目の前の子供だけのことを考える時間**が与えられているのですから。

47

## 「専門性」って何？

- ▶ そのために、「**子供が得意なこと**」「**子供が自信をもってできること**」を探しましょう。在籍する学級に帰った時に、生かせる活動だと、なおよいですね。
- ▶ でも、すぐに見つかるものでもありません。試行錯誤して、一緒につまづいて、時に嫌われたり、保護者に「遊んでばかり」と不信感を抱かれることだってあります。

48

## 「専門性」って何？

- ▶ 私は「世界中の全員が、『あなたを悪い』と言っても、私はあなたを信じているからね」、それくらいの覚悟で、子供と向き合うことにしています。
- ▶ 子供と保護者は、ここで何かを得られる、救われると信じて来てくれているのです。いろいろなことがあるかもしれませんが、成長を信じましょうよ。子供と保護者は、もっとつらい思いをしてきたはずですから。

いろいろこまったことも起こすでしょうけれど…。

こまった保護者もいるかもしれませんが…。

トラブルが起きているのだから、わざとではありません。

49

## 「専門性」って何？

- ▶ 「子供が得意なこと」「子供が自信をもってできること」の手がかりになるのは、子供の「好きなこと」です。「好きなこと」があれば、それは全ての行動の動機付けになり得ます。
- ▶ 明日の講義の中でも、「子供の好きなことを生かす」という話が出てくると思います。どんな活動でも、「好きなこと」が「生きる力」の基本になるのです。

50

## 「専門性」って何？

- ▶ 「通級による指導」最大の強みは、学習指導要領にとらわれないことです。子供たちの「好きなこと」を手がかりにして教材を組み立てることができるのです。これは、あらゆる指導場面で活用できることです。
- ▶ ただし、「好きなこと」「興味関心」が極めて薄い子供もいます。その時は、先生の興味関心に引きずり込むことも一つの方法です。

51

## 「専門性」って何？

- ▶ そして、「好きなこと」を手がかりにした指導の中から、子供たちの「よいところ」を見つけましょう。お世辞ではなく、人として、生きるための強みとなるような「よいところ」を見つけましょう。そして、それを本人にも、保護者も本気で伝えましょう。お世辞ではないということを、客観的な根拠をもって、真剣に伝えましょう。それが、結果として子供と保護者の信頼を得ることになります。

さらに、在籍学級の担任、子供たちにも認め合う指導を！

吃音のこと、きこえのこと、世の中には、いろいろな人がいることを伝えましょう。

52

### 「きこえとことばの教室」とは…

- ▶ 『栄養補給の場』 (保護者)
  - ▶ 『心の保健室』『心のオアシス』 (保護者)
  - ▶ 『自分らしくいられる場所』 (卒業生)
  - ▶ 『生き方研究所』 (特別支援教育総合研究所: 牧野泰美先生)
  - ▶ 『子供の「在ること (Being) の自信」を支える場所』  
(島根大学: 肥後功一先生)
- こんな言葉で、頼りにしていただいています。  
ありがたいことですね。こんな風に思ってもらえたら、  
もうそれだけで一生がんばれますよね。

53

### 3 「保護者」も支えるということ

54

### 最後まで付き合うのは保護者だけ

- ▶ 私たちがどんなに長く付き合えたとしても、中学校3年生までです。その前後も含めて、人生を共にできるのは保護者だけです。長く寄り添っている保護者を超える存在にはなれません。
- ▶ だからどんなに無謀で不合理と思っても、**保護者の意向を尊重する**しかないのです。私は、自分の判断よりも保護者の判断が適切だった事例をいくつか見えています。

55

### 最後まで付き合うのは保護者だけ

- ▶ たとえ間違った進路だとしても、我々が最適な支援者でないと考えたとしても、頼ってくれたのであれば、その**保護者を支えるのが我々の責務**だと思います。
- ▶ できる範囲のことしかできません。でも、何ができるか、を一緒に考えましょう。週に1回ではできることも多くはありません。たかが通級です。されど通級なのです。

56

## 保護者は…

- ▶ ここへ来るまでの間に、多くの保護者が  
「しっかりことばをかけたか？」  
「読み聞かせはしましたか？」  
と言われてきたはず。  
「私の育て方が悪かったから、この子はことば  
が遅いのだろうか？」  
と後悔にさいなまれているはず。

57

## 保護者は…

- ▶ 大切なのは、保護者が安定した気持ちで子供の向き合えることです。
- ▶ そして、我々にできることは  
「あなたの子育ては間違っていないよ」  
を伝えることです。

私は、子育てに正解もなければ間違いもないと思っています。

58

## 保護者は…

- ▶ そして  
「あなたがここまで育てたから、この子はこんな  
によいところがあるのですよ」  
を伝えることです。  
お世辞ではなく、あなたの客観的な教師としての  
目で、肯定しましょう。それが、子供を肯定す  
ることにもつながるはずですから。

59

## おすすめの図書①（指導・教材）

- ・「特別支援教育の基礎・基本」  
独立行政法人国立特別支援教育研究所 ジアース教育新社
- ・「こどものきこえ小百科」 さっぽろ子どもの聞こえ相談ネットワークを作る会
- ・「聴覚障害教育の手引き」 文部科学省 ジアース教育新社
- ・「人工内耳装用者と難聴児の学習」 城間将江 他 学苑社
- ・「日々のわずかな時間で子供のことばの力を育てる」 山本晃 ジアース教育新社
- ・「通級指導教室と特別支援教室の指導のアイデア」 月森久江編 図書文化
- ・「きせつのきょうじ絵じてん」 三省堂
- ・「実践に学ぶ特別支援教育」 水野薫編 ASD教育実践研究会著 本の種出版
- ・「なぞらずにうまくなる子どものひらがな練習帳」  
桂聖・永田沙戀 実務教育出版

60

## おすすめの図書② (保護者支援・通常学級担任連携)

- ・「子どもの心の受け止め方」 川上康則 光村図書
- ・「通常学級の特別支援」 佐藤慎二 日本文化科学社
- ・「通級指導と特別支援教室の指導のアイデア」 月森久江編 図書文化
- ・「Q&Aで考える保護者支援」 中川信子 学苑社
- ・「ことばの不自由な人をよく知る本」 中川信子・阿部厚仁 監修
- ・「発達が気になる子の育て方」 平熱 かんき出版
- ・「みんなが輝くために①～⑤」 梅田真理／原作・著 河西哲郎／マンガ
- ・「マンガでわかる発達障害の子どもたち」 本田秀夫／著 フクチマミ／マンガ
- ・「うちの子は字が書けない」 宇野彰／監修 千葉リョウコ／マンガ

61

## 最後に…

- ▶ お話したことは、あくまで個人の見解です。
- ▶ **教育に正解はありません。成功もなければ、失敗もありません。**
- ▶ **指導要領も学力調査もない「特別支援教育」には、なおさらです。**
- ▶ **評価があるとなれば、通ってきた子供と保護者が「通ってよかった」と思えたら…。**

62

## おわり

ご清聴ありがとうございました。  
実り多き3日間を！

63